

令和7年度 詳細評価シート

(1)事業の概要等

事業番号	B2202	事務事業名		文化財資料研究委託(一般事務事業)				事業期間			昭和63年度以前	～	令和9年度以降					
実施計画事業																		
評価対象年度	令和 6 年度	担当部		教育委員会事務局				担当課・担当係			文化財課 文化財係							
事業の概要・展開	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編	基本 施策	22	展開 方向	2	事業区分	その他(評価対象)	款	10	項	5	目	6	大	2	中	1
	事業の目的・効果							事業概要		小・中学校の教員で構成される小牧市文化財資料研究会に委託して以下の2つの事業を実施。 ・こまき検定の企画・運営 身の回りの歴史や文化に興味関心を持ってもらうため、小・中学生を対象としてこまきに関する検定を実施する。 ・文化財の調査・研究 市内の歴史について、2カ年をかけて取材・執筆・校正、と書籍の原稿作成を行う(書籍印刷は委託事業ではなく市が行う)。								
	事業の経緯 ・小牧市文化財資料研究会では、昭和44年度から現在まで約50冊の書籍の刊行、昭和46年度から平成28年度にかけて45回の文化財愛護のつどいを開催し、平成28年度からはこまき検定を開催し、令和7年度に第10回を迎える。 年度計画 ・令和7年度:『小牧文化財散歩～「こまき検定」に出題された文化財の今～』の刊行、第10回こまき検定の開催 ・令和8年度～:小・中学校における「探究的な活動」に活用するため、過去に刊行した書籍の中から題材の抽出、調査・研究、情報発信等を行う。																	

(2)事業費

事業費	項目	単位等	R3	R4	R5	R6	R7
			800	881	831	812	
直接経費	決算額	財源	一般財源	0	0	0	0
			国・県支出金	0	0	0	0
			その他	0	0	0	0
		計(A)	800	881	831	812	
	対前年比	%	—	110.13%	94.32%	97.71%	
人件費	予算額	千円	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	正規職員	人	0.1	0	0	0	
	会計年度任用職員	人		0.1	0.1	0.1	
	人件費(B)	千円	752	264	264	264	
	事業費合計(C=A+B)	千円	1,552	1,145	1,095	1,076	

(3)業績

指標	指標ほか	単位	R3	R4	R5	R6	R7
			50	50	50	50	50
成果指標	こまき検定の参加者数	人	目標	50	50	50	50
			実績	32	23	20	25
活動指標	資料研究会の開催数	回	目標	—	—	—	—
			実績	11	10	10	14

(4)事業の評価

事業の方向性	維持(改善)	事務事業評価による額	300	千円		
事業の実施状況	事業の目的の達成状況及び指標の達成状況	こまき検定 ・検定は30問であるが、検定前に60問の予習問題を作成のうえ、HPへ掲載したり、参加賞を工夫するなど、検定への興味関心を引くような実施方法に取り組んだ。 ・参加への呼びかけについて、チラシ作成のうえ、全小中学生(13,000部印刷)へ配布しているものの、参加者は伸び悩んでいる。 文化財の調査・研究 ・委員のメンバーである教員自身が身近な文化財・伝統などを勉強する機会として、取材等を行い、書籍発行に向け活動し、これまで約50冊の原稿を作成してきた。 共通の課題 ・検定や文化財の調査研究には、打合せ等も含め多くの時間を要し、教員の多忙化解消には逆行している。	今後の実施内容	こまき検定 ・こまき検定は、平成28年度の第1回開催から令和6年度の第9回までの間に約280名の小・中学生に参加いただき、小牧の歴史や文化に興味・関心を持ってもらうことができたことや、検定用に作成した問題をもとに作成した書籍を刊行予定であることなど、一定の効果を上げることができたことから、令和7年度で毎年実施は最後とする。 文化財の調査研究 ・令和7年度は、これまで実施してきた検定で出題された文化財が今どうなっているのかを紹介する『小牧文化財散歩～「こまき検定」に出題された文化財の今～』の刊行を行う。 ・こまき検定の過去問題は、子どもたちが楽しんで身近な歴史・文化に触れる機会の創出に役立てるため、令和8年度に設置する(仮称)歴史民俗資料展示施設における活用策を検討する。 ・文化財の調査研究の成果として得られた資料を、(仮称)歴史民俗資料展示施設においてパネル展示するなどし、市民へ身近にある文化財への興味・関心を高めていく。 ・小牧山歴史館の見学ワークシートを作成する。		
	E(廃止)業務自体を無くせるか	No	改善 取組内容	こまき検定の開催方法・開催頻度を見直すことで、文化財資料研究会の開催回数が減少し、教員の多忙化解消にも繋がる。 ・文化財資料研究会で得られた成果を踏まえ、(仮称)歴史民俗資料展示での活用や、市HPで公開することで、広く子ども達に地元で伝わる文化財を知るきっかけや、興味・関心を持ってもらう機会を提供することができる。		
	C(結合)作業をまとめられるか	No				
	R(入替・代替)手順や担当を変えられるか	No				
	S(単純化)もっと簡単にできるか	Yes				